

令和7年度全国学力・学習状況調査本校結果の概要

行方市立麻生東小学校

令和7年4月に小学校第6学年を対象に実施された「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果について、本校の概要をお知らせします。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 結果の概要

児童主体を意識した授業改善と、ICT活用の推進により、児童の学び方が変化し、学力の定着が見られるようになりました。

【国語】

・「話すこと・聞くこと」

話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がありました。児童が何と何を比べて考えればよいかを明確にすることで焦点化でき、自他の意見を整理しやすくなります。ICT等を活用しながら、多様な資料に触れ、整理・表現する力を育成できる授業を進めていきます。

・「読むこと」

複数の資料を基に、根拠を示しながら考えたことを表現したり、根拠を基に資料や記録の内容を説明したりする問題に課題がありました。複数資料を目的を持って読み取る活動や問いを立てながら読み取る活動を充実させ、根拠を基に筋道立てて考える力を育成していきます。

・「我が国の伝統文化に関する事項」

言語の特徴や使い方に関する知識の理解がよくなっています。特に、学年別に学習してきた漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、全国平均を大きく上回っています。

【算数】

・「数と計算」

棒グラフから、項目間の関係を読み取ることに課題がありました。また、数直線上に示された数を分数で表すことに課題がありました。単なる数値の読み取りに終わることなく、数・量・位置の関係性を把握し理解できるように、目盛や単位を意識する活動の充実を図っていきます。

・「図形」

図形に関しては、概ねよくできていました。特に、図形の性質を基に作図したり、図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて表現したりする設問はよくできていました。今後も、具体物の操作やICTを活用して理解を深めることができるように指導していきます。

・「変化と関係」

速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかをみることに課題がありました。単位量当たりの大きさについて学び直し、単位量をあたりの大きさを用いて比べることができるよう指導していきます。

【理科】

・「生命・地球」を柱とする領域

顕微鏡の操作、花のつくりや受粉についての知識が身に付いています。一方で、海にある氷が溶ける理由や土に水がしみ込む時間について、根拠を基に予想することに関わる設問で課題が見られました。観察や実験の結果を予測する際に、これまでの知識や経験、関連する情報を基に、論理的に説明できるように指導していきます。

【質問紙】

- ・学習の中で、タブレットPCなどのICT機器使用する回数や、分からないことを調べたりする用途、楽しみながら学習を進めている状況などICT機器を活用している児童が増えています。
- ・学校の授業時間以外での1日あたりの学習時間が、全国平均より少ない傾向があります。家庭との連携を密にし集中できる環境を整えたり、目標に合わせた計画を立てたりして、毎日継続して取り組めるよう指導していきます。

